

子どもが大事にされる、

保護者座談会

母親が安心できる

谷戸幼稚園に子どもを通わせているお母さんたちは、
幼稚園をどう見ているのでしょうか。
各学年から2〜3人ずつ、7人の方に語っていただきました。

出席者

K.Hさん：年中（次女）、小3（長女）
N.Yさん：年長（長男）
W.Yさん：年長（長女）、中1（長男）
N.Mさん：年中（次女）、小1（長女）
S.Tさん：年少（長女）、小1（長男）
S.Eさん：年少（次女）、小1（長男）、小1（長女）
T.Yさん：年中（長女）
司会・構成：父母の会役員

（2015年9月実施）

入園の 決め手は？

今日は、保護者から見ての谷戸幼稚園（以下谷戸）の魅力を話して
いただきたいと思います。
この地域にはいくつか幼稚園がありますが、中でもなぜ谷戸を
選んだのか、距離が近いということ以外の理由を教えてください。

K.H——長女の時、いろいろな園を見た中で、谷戸の説明会で園長先生のお話
が印象深くて。決まったカリキュラムに沿った話ではなくて、幼稚園に
通う頃というのは、子どもの自我が芽生える素晴らしい時期だというお
話に、あぁいいな、と思いました。

N.Y——息子は3月生まれで、周りのお友だちについていけるかという心配があ
り、たくさんの友だちの中でもまれてほしいと思って、谷戸を選びまし
た。いろんな友だちや、遊びの中で個性を引き出してくれそうな印象だっ
たことも決め手の一つです。

W.Y——中1の長男は自然とのふれあいを大事に、元気に遊べる保育園に通った
ので、娘にも同じような環境をと思って探しました。仕事柄、小さい子
やその親御さんと接する機会が多く、谷戸の卒園児や在園児の成長も間
近で見てきて、いい幼稚園だなと感じていたというのもあります。実際
に見学に来たとき、園庭にあったツリーハウスを見て、「私が入りたい」
と思ったのを覚えています。

N.M——小学校の勉強を先取りして教えることを特徴としている園もあります
が、遊びが中心の谷戸の保育方針や、第一と第二で風情の違う園庭、園
長先生が子どもに何かを「学ばせる」のではなくて、子ども自身を大切
にしてくれそうな姿に魅力を感じて決めました。



「やっぱり 入れてよかった！」 ポイントは？

では、実際に入園させてみて、
これはいいな、と思った部分はどこですか？

S.E——大人のペースにはめるのではなく、子どもの自主性を大切にしてくれる
ところ。特に長男、長女は切り替えがあまり得意ではなくて、読み聞か
せてみんなが集まっても、だいたい輪からはずれていました。その
時、先生は「はい、こっちに来て絵本を見ましょう」とは言わずに、で
もちゃんと見守っていてくださっていて。それで、しばらくしてからそ
の輪に入ると「よかったね！一緒に見ようね！」と、後からでも参加し
てよかった、と思えるような声掛けをしてくださるんです。すごくほっ
としました。

N.M——我が家も長女は切り替えが少し苦手で、年少の最初の頃、お弁当をみん
などは食べたくないと言って、テラスや廊下に出ていたんです。その時
に、部屋に無理矢理連れ戻すのではなくて、「今日はここで食べたいのね」
と言って、娘に担任の先生がついて、一緒にお弁当を食べてくださって。
今思い出しただけでも涙が...

T.Y——子どもを認めてもらえると、お母さんの気持ちも安定しますよね。

N.M——本当にホッとして、初めての子で、初めての幼稚園。不安だらけだった
ので、この出来事はすごくよく覚えています。その後、だんだんにみん
なと一緒にのころにも入っていききたいと思い始めた娘を、今度はうまく
リードしていただきました。

K.H——私は行事のことが印象的で。たとえば運動会も「運動会とはこういうも
のだ」という型があって、それに沿って機械的に練習をするのではなく、
毎年先生たちが試行錯誤しながら、どうすれば子どもたちが生き生きと
活躍できる場になるかを考えていて、素晴らしいなと思いました。
あとは、長女は卵、牛乳、小麦粉などのアレルギーがあって、年長のお
泊り会は参加できないかな...と思っていたんです。園児が夕飯の献立を
考えて買い物料理もするので。事前の相談で、長女のチームは餃子作
ることになりました。でも餃子は皮に小麦が含まれるので、どうし
ょうか、と私と先生方で相談して、ライスペーパーなら大丈夫ということ
で、ちゃんと実現してくださったんです。こういう一つひとつのこと
で、たぶんすごく大変だと思うんですけど、嫌な顔一つせず、だから
といって、適当にもせずに対応してくださって本当にありがたかったで
す。

N.Y——園としては大変なことだとしても、子どもにとって何が一番大切な、を
常に考えているからそういう対応をしてくださるのでしょうか。

K.H——そうなんです。なにより娘がクラスの人々と一緒に遊びができて、
すごく楽しそうでしたから。

先生も 本気で遊ぶ

T. Y——それから、入園してびっくりしたのは、先生たちが本気で遊んでいること（笑）。ものすごい目が真剣です。

K. H——そうそう。いつだったか、雪か、落ち葉がつもっていたところで、てつや先生がソリになってくださり、子どもたちが何人も先生の背中に乗っかって滑っていたんです。

一同——えええ——！

K. H——私もびっくりしましたが、卒園の時に、思い出を話していたお母さんが「てつや先生が身体をはってソリになってくださって、感動しました」と言っていました。

N. Y——保育参加で泥遊びに親も参加しましたが、先生たちが子どもと一緒に全身泥だらけになっているのを見て、最初びっくりしました。

W. Y——そうですね。ただ、娘は泥んこはしないし、わりと静かに遊ぶのが好きなタイプで、谷戸の良さを満喫できていないのかな、と思っていた時期もありました。でも、先生たちは、泥んこをしない子も、その子なりに好きな遊びに向かえるように見守ってくださっています。娘は年長の夏休み前くらいから、虫に興味を持ち始めたんですね。この前の保育参加の時も、虫好きの子たちと、バツを18匹捕まえたり（笑）。それを全部クラスで飼いたいと子どもたちが言ったら、飼わせてくれて。その子の興味のあることをそのまま認めてくれる環境にすごく感謝しました。

そうですね。谷戸はとにかく3年間、このように遊んで遊んで遊ぶ、という保育が中心ですが、小学校に入って勉強は大丈夫かと心配になったりしますか？

S. T——卒園した長男は特に興味を示さなかったのですが、それこそ小学校に入ってから初めてひらがなを勉強したのですが、何も問題なかったですよ。

S. E——園のカリキュラムとして勉強することはないけれど、お手紙ごっこのような遊びの中で自然に文字を覚えていた部分はあるかもしれません。年長になると、ゆたかまつりのポップを書いたり、お泊り会のスケジュール表を書いたりもしていますね。

T. Y——卒園児のお母さんから聞いたのですが、谷戸で、たとえば机に向かって字を書く、というような経験をしなかったからか、逆に小学校に上がって教室で授業を受けることがすごく新鮮だったようで、得意になって頑張っていたという話もあります。

N. Y——遊ぶ中で体力がつくからか、授業時間中ちゃんと座っていられる子が多いうって聞きますよね。一定時間座り続けるのってかなり体力がいるから。

K. H——園での遊びはすごくダイナミックで、家ではなかなか経験させられないことが多いから、園ではそういうことに集中して、もし勉強させたいのであれば、今は便利な教材も揃っているから、家庭ですればいいのかなとも思います。



お母さんたちが おおらか

T. Y——入園するまで、幼稚園のお母さんのコミュニティってどんな感じなのか、ちょっと恐れていた部分がありました。いろんな情報もあるし。でも入ってみたらそんな心配は全く無用でした。

S. E——確かに。お母さんたち、皆さんおおらかですね。

S. T——基本的に泥んこもOK！という家庭のお母さんからおおらかなのかなあ。

W. Y——それもあるかもしれないですね。

N. M——あとは、きょうだいを入れている人がすごく多くて。それだけ園に信頼があるのかなと思います。上の子が卒園・在園しているお母さんはみなさん先輩だけれど、すごく優しく、親子で初めての幼稚園生活で、不安たくさん！という時にいろいろ教えてもらって助けられました。

T. Y——あと、園では度々保護者ボランティアの募集があるけれど、別にだれか友だちと連れだって応募しないで、自分1人で行っても他のお母さんたちとすぐに打ち解けられるからいいですね。



先生に 話しやすい雰囲気

S. E——職員室がフルオープンなのにもびっくり（笑）。園長室もないし。

N. Y——入園前、「おにいさんおねえさんと遊ぼう」という行事に行ったら、ベテランの女性の先生が担当していて、ピアノがものすごくまいなあと感じていたんです。その後、説明会に行ったらその先生が園長先生でびっくりしました。

S. T——そうそう。いつも保育の現場にいらっしゃるから、言われなかったらわからないですよね。私、長男が卒園する直前くらいの時期に、このままでうちの子、小学生になってもやっていけるかなってすごく不安になってしまって。園長先生は朝も帰日も門の近くに立っていてくださるから、その時私、相談したの。そしたら先生が「大丈夫。子育ては子どもが成人するまで続くんだから、焦ることはないよ。長い目で見守ってほしい」と言ってくださってすごく救われました。

N. Y——どの先生も、子どもだけでなく、母親にもあたたかいですよ。私は給食にしかどうか迷っていたときに、事務の本間先生が「年少さんのお弁当は、子どもが好きなものをちょっぴり入れればそれでいいのよ。まずはみんなと一緒に楽しく食べられることが大事だから」と言ってくださって、ああそうか、ってすごく気持ちが楽になりました。

N. M——いろんな年代の先生がいらっしゃって、在職年数が長い先生が多いのも特徴かもしれませんね。

T. Y——先生が一つのチームとして、すごくいい雰囲気、というのは感じます。担任をもたないフリーの先生もすぐに全園児の顔と名前を憶えてくださるし。

S. E——あと絶対に伝えたいのは、バスを運転してくださる樋口先生！いつも笑顔で、町中どこでも必ず挨拶してくださる。

N. M——谷戸は、建物や園庭も確かに考えられてはいるけれど、何よりもソフト面が充実していますよね。先生方や子どもたちの様子を見ていただきたいです。

W. Y——いつもでも見学OKなので、ぜひ来て見て、確かめてほしいです！